

住み慣れた地域での生活を考えるワークショップの開催報告（根岸地区）

- 1 日 時 令和7年11月8日（土）10時から12時
 2 場 所 根岸公民館 ホール
 3 対象地区 根岸地区
 4 参加者 18人（地域関係者12人（民生委員、ほのぼの交流協力員、地域住民、福祉施設職員など）、八戸学院大学 学生4名、高齢者支援センター2名）

5 開催概要

（1）話題提供

「八戸市の高齢者を取り巻く状況」

八戸市 福祉部 高齢福祉課 保健師 佐藤 楓

「地域包括ケアシステムの解説」

八戸学院大学 健康医療学部 人間健康学科 講師 大木 えりか 氏

（2）ワークショップ（グループワーク）

テーマ 「根岸地区での生活について考える」

八戸学院大学 健康医療学部 人間健康学科 講師 立石 真司 氏

- ・3つ選んで自己紹介（アイスブレイク）
- ・根岸地区の将来像（どんな地域が理想か）について意見交換
- ・全体共有 各グループから検討した内容について発表

【主な意見】

項目	内容
生活インフラ （道路・交通、商業施設、娯楽施設等） 居住環境	<ul style="list-style-type: none"> ・段差の解消。歩道や電灯の整備。山道の整備。 ・様々な道のルートを提示する。 ・道路が複雑で交通量も多い為、安心して歩けるように整備して欲しい。 ・交通手段の充実。 ・無料の電気バスが循環して交通の便が良くなると良い。 ・バス停がもっと欲しい。 ・通院などにタクシー代がかかって困る。 ・乗り合いタクシーの無料券を1人に10枚。 ・自由に移動できる送迎車が欲しい。 ・車が無くてでも生活できるようにして欲しい。 ・スーパー等の立地場所が近くにあると良い。 ・喫茶店が無い。幅広い層が集まれる飲食店があると良い。 ⇒移住してきた人の活躍。うた声喫茶をひらく。 ・映画上映 ・若者が集まれる場所が欲しい ・室内で走り回れる施設があると良い。

<p>災害対策 安全な生活環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・災害に強い地域にしたい。 ・津波への災害対策。 ・避難場所の明確化。 ・避難場所が近くに欲しい。避難場所の建設。 ・避難が大変。一人で避難できない。 ・災害時に避難経路が混み合う。避難するのに坂がきつい。 ・災害時に避難する手伝いができる仕組みがあると良い。 ・避難訓練が必要。避難訓練参加者の増加。 ・除雪技術の向上。除雪が遅い地域がある。 ・クマ対策。 ・道が暗い。
<p>町内会 子ども会 地域イベント 住民同士の交流</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもから高齢者まで安心して暮らせる地域。 ・町内会の活性化。加入者の増加。 ・側溝掃除や公園の草取り、伝統の継承など、子どもや高校生・大学生の若い力の参加・協力。 ・草刈りは役所で。 ・子ども会の復活。 ・世代間交流の活性化。小学生や中学生と地域住民との交流。 ・多世代でそれぞれができる事を補い合える関係、機会の創出。 ・こども、高齢者、障害者など様々な人が集い、つながる場所を作る。 ・若い人にも公民館をどんどん使って欲しい。 ・レストランやカフェ、銭湯など気軽に会話したり集える場所が欲しい。 ・近隣同士のつながり強化。 ・ケアに関わる人同士が相談できる場、専門職以外にも関係性を作れる場。 ・町内のイベントや交流行事を増やす。 ・調理教室の開催。 ・地元出身有名人のライブ。イベントがあると盛り上げられる。 ・公民館利用の促進。土日可。メールの活用。 ・事業者も地域イベントに積極的に参加。 ・希望制で町内の見回りや高齢者の見守り。 ・小学生が安心して登校できる地域。 ・お互いに気楽に声を掛け合える地域。
<p>住民生活 生活の利便性 ボランティア</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一人暮らしの高齢者が増えた。 ・認知症になっても家で生活したい。 ・体調の不安を相談したい。 ・雪かき・買い物など高校生や大学生の若い力の支援があると心強い。 ・おしゃべりボランティア。 ・見守りボランティア。

	<p>⇒避難時の声かけがしやすくなる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スマホの使い方がわからない。 ⇒若い人から高齢者へスマホの使い方を教える。 ・電化製品の不具合など、困った時に相談したい。 ・訪問してくれるヘルパーやデイサービスが少ない。 ・報酬が上がれば、若い担い手が増える。 ・犬のフンは自己責任で処理すべき。 ・ゴミ捨て場のゴミの散乱はどうにかならないものか。 ・スーパーや病院、移動など生活の利便性向上。 ⇒町内地区循環のマイクロバス。
<p>その他 (伝統、情報 発信、空き 家)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・えんぶり、寅舞いの継続。 ⇒小学校にえんぶり組を作る。 ・えんぶり組の高齢化。 ・地域のいろいろな団体の高齢化。 ・えんぶりに親が同行しなくても良いようにして欲しい。 ・情報発信。 ・ポスター、チラシ、回覧板等の活用。 ・飲食店をわかりやすく整理する。 ・空き家の放置。 ・隣の空き家が売れない。 ・空き家情報の発信ツール。 ・法人の活用。